

米良美一 編

Yoshikazu Mera

日本のうた
300
やすらぎの世界



米良美——1971年、宮崎県に生まれる。洗足学園大学を卒業。1994年第8回古楽コンクール最高位。1996年オランダ国費留学生としてアムステルダム、スウェーリング音楽院に留学。日本を代表するカウンターテナーである。宗教曲からリート、黒人霊歌、ミュージカルナンバーまでレパートリーは幅広い。『母の唄一日』

本歌曲集』(キングレコード・1996年)が評判となり、映画『もののけ姫』の主題歌を担当するなど、クラシックの歌手の枠にとどまらないエンターテイナーとして注目されている。作品は他に『うぐひす—日本歌曲集』『ROMANCE』(以上、キングレコード)などがある。

講談社+^{にほん}文庫 **日本のうた300、やすらぎの世界**^{せかい}

^{めらよしかず}
米良美——編 ©Yoshikazu Mera 1997

本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。

1997年11月20日第1刷発行

発行者——野間佐和子

発行所——株式会社 講談社

東京都文京区音羽2-12-21 〒112-8001

電話 出版部(03)5395-3532

販売部(03)5395-3626

製作部(03)5395-3615

装画——いもとようこ

デザイン——鈴木成一デザイン室

カバー印刷——凸版印刷株式会社

印刷——慶昌堂印刷株式会社

製本——有限会社中澤製本所

落丁本・乱丁本は小社書籍製作部あてにお送りください。

送料は小社負担にてお取り替えします。

なお、この本の内容についてのお問い合わせは

生活文化新企画部あてにお願いいたします。

Printed in Japan ISBN4-06-256227-8 (生活文化新企画)

定価はカバーに表示してあります。

JASRACの
承認により
許諾証紙
貼付免除

日本音楽著作権協会(出)許諾第9708341-701号

(許諾番号の対象は、当該出版物中、当協会が許諾することのできる著作物に限られます。)

日本のうた300、やすらぎの世界

米良 美一 = 編

講談社  文庫

心を癒す日本のうた

私は、物心ついたときから、いつも歌と共に生きてきたような気がします。

三、四歳頃には、もう、当時の流行歌を周りの大人達のリクエストに応じて歌い、踊っていたという記憶があります。なぜでしょうか、私は、自分の歌や踊りに対する周囲の大人達の反応——喜びや笑い、涙など——に不思議なほどの魅力を感じていたのです。

歌や音楽が人の心に与える、魔法のような力に、幼いながら、魅了されていたのかもしれませんが。あるいは、自分の中の小さなナルシズムが満たされる快感を感じていたのかもしれませんが。ともあれ、そんな幼少の頃の記憶が、現在の私の活動の源流なのだと思います。

ここに挙げた歌の数々は、私のこれまでの生活と様々な形でつながっているものです。

ことあるごとに歌ってきたものの、記憶の中にうつすらと残っているもの、日々の生活の中で自然に耳にしていたもの。これら、広範囲にわたるレパートリーをご覧いただいたとき、私がいかに「音楽人生」を楽しんできた人間であるか、きつと皆さまに分かつていただけると思います。

嬉しいときも悲しいときも、悔しかったり寂しかったりしたときも、いつも私の口からは歌声がこぼれていました。歌は、私にたくさんの勇氣と自信を与えてくれるのです。人は誰しも悩みや痛みを抱えて生きていくのですが、私は、自分の中にあるそうした辛さを、歌うことで、前向きに方向転換していきたいいつも思っています。

ジャンルにはこだわりません。そのときどき、自分の心が求めるものを歌いたいのです。事実、高校生になる頃までは、クラシック音楽にそれほど興味がありませんでした。およそ私の周りにはクラシックに対する興味や知識を育む土壌がなかったのです。ですから、幼い頃は、周囲の影響から、日本民謡や詩吟、演歌などを好んでいましたし、中学生の頃はアイドルが歌うポップスなどに興味をもっていました。私が歌に求める「やささぎ」や「癒し」は、つねに形を変えて流れているように思えます。

プロの歌手になってからも、様々なジャンルの歌に興味を感じています。クラシック歌

手として、外国語の歌も多く歌っています。けれど、やはり日本人だからでしょうか、日本語の歌を歌っているとき、聴いてくださる皆さまにも自分自身にも、一番強く訴えかけることができるような気がします。また、ヨーロッパで外国語に囲まれて暮らしているせいか、日本語の美しさや表現の繊細さを、今さらながら、実感しています。そんな、「故郷は、遠くにありて……」という感覚にも似た想いが、これらの歌を選ぶことにつながりました。

時代を経て今なお色あせることのない名曲、現代の想いをつづり、私達に共感を与える歌、懐かしさに胸が焦こがれるような歌……、ここに並べた歌の数々は、いずれも素晴らしき私の宝物達です。

人それぞれに心に響く音楽は異なるものだと思います。時代や環境によっても、人の求める音楽の形は異なるのでしよう。けれど、いつの世も、どんな場所でも、音楽は、歌は、人の心を癒し、やすらぎを与えてくれる「母性」に似た不思議な力をもっているのだと思います。

今、生活の中に様々な形の音楽が溢あふれかえっている時代に、あるいはそんな時代だからこそ、私はもう一度、自分にとっての音楽を大切に見つめ直してみたいと思っています。

そして可能なら、私の側にいつも寄り添っていてくれた歌達を道案内に、自分の今までを見つめ直してみたいと思っています。

私自身忘れかけていた多くの歌を再び思い起こす機会を与えてくださった講談社の岡部さん、不精な私を好サポートしてくださった凱風舎の川田さん、星野さん、そして私の歌を聴いてくださるファンの皆さまに、心より感謝して、この本が末永く愛していただけることを、そっと祈っています。

一九九七年十月

米良 美一
めら よしかず

日本のうた300、

やすらぎの世界……目次

第2章 幼き日々の夢

心を癒す日本のうた 米良美一 3

子守うた 28

◆エッセイ◆太田治子 29

子守歌 30

十五夜お月さん 31

里の秋 32

母の歌 33

みかんの花咲く丘 34

◆エッセイ◆海老名香葉子 35

かあさんの歌 36

おふくろさん 37

モーツアルトの子守歌 38

シューベルトの子守歌 39

ずいずいずつころばし 42

うさぎ 43

キンタロウ 44

浦島太郎 45

桃太郎 46

◆エッセイ◆今井通子 47

あわて床屋 48

てるてる坊主 50

通りゃんせ 51

かやの木山 52

鐘が鳴ります 53

第1章 母の唄

揺籠ゆりかごのうた 22

肩たたき 23

アメフリ 24

◆エッセイ◆和田誠 25

ぞうさん 26

おかあさん 27

象の子	54
証城寺の狸囃子	55
花嫁人形	56
あの子この子	57
かえろかえろと	58
待ちぼうけ	59
鴉	60
月の沙漠	61
ちんちん千鳥	62
山寺の和尚さん	63
秋の野	64
◆エッセイ◆阪田寛夫	65
さより	66
雪女	67
からりこ	68
ひょうたん	69

私たち	70
かんぴよう	71
おやすみ	72
風の子供	73
裹着て通る	74
びわ	75
めだかの学校	76
◆エッセイ◆田嶋陽子	77
ふしぎなポケット	78
ちいさい秋みつけた	79
おやすみなさい	80
鉄腕アトム	81
北風小僧の寒太郎	82
につぼん昔ばなし	83

第3章 子供の四季

お正月	86
一月一日	87
蝶々	88
◆エッセイ◆阿川佐和子	89
春が来た	90
春の小川	91
うれしいひな祭り	92
サツちゃん	93
おもいでのアルバム	94
いちねんせいになったら	96
ぶらんこ	97

しゃぼん玉 98

◆エッセイ◆岡部まり 99

お友だちといっしょ 100

チューリップ 101

ドレミの歌 102

茶摘^{ちやつみ} 103

靴が鳴る 104

背くらべ 105

コイノボリ 106

かわいい魚屋さん 107

とんび 108

われは海の子 109

七つの子 110

◆エッセイ◆寿岳章子 111

夕焼小焼 112

たなばたさま 113

ウミ 114

アルプス一万尺^{いちまんじやく} 115

手のひらを太陽に 116

線路は続くよどこまでも 117

はまべ 118

夕日が背中を押してくる 119

虫のこえ 120

◆エッセイ◆泉 麻人 121

村祭 122

赤い靴 123

秋の夜 124

雨降りお月さん 125

あの町この町 126

叱られて 127

青い眼の人形 128

たき火 129

大きな古時計 130

◆エッセイ◆黒田福美 131

ペチカ 132

スキー 133

雪 134

第4章 憧れ

椰子^{やし}の実 136

小諸^{こもろ}なる古城のほとり 137

ゴンドラの唄 138

野薔薇^{のばら} 139

浅き春に寄せて 140

◆エッセイ◆松本 隆 141

夢見たものは 142

汚れっちまった悲しみに 143

初恋 144

うぐいす 145

月見草の花 146

駅 147

バラが咲いた 148

若者たち 149

真夜中のギター 150

◆エッセー◆高橋春男 151

落葉松 152

せんせい 153

野ばら 154

第5章 若い恋

君がため織る綾錦 あやにしき 156

気まぐれ 157

恋はやさし 野辺の花よ 158

惜別の唄 159

あざみの歌 160

山小舎の灯 やまこやともしび 161

白い花の咲く頃 162

踊子 163

霧と話した 164

◆エッセー◆浅井慎平 165

学生時代 166

誰もいない海 167

あの素晴らしい

愛をもう一度 168

神田川 169

なごり雪 170

木綿のハンカチーフ もめん 171

切手のないおくりもの 172

青春時代 173

いとしのエリー 174

もしもピアノが弾けたなら

◆エッセー◆落合恵子 177

YA YA

(あの時代を忘れない)

I LOVE YOU 180

赤いスイートピー 182

島唄 183

第6章

別れ、そして旅
だち

小さな木の実 186

蛍の光 187

あおげば尊し 188

出船(勝田香月作詞)

189

七里ヶ浜の哀歌 190

出船(北原白秋作詞)

192

高校三年生 193

今日の日はさようなら

194

◆エッセイ◆林 望 195

巣立ちの歌 196

卒業写真 197

時代 198
秋桜 199

贈る言葉 200

お立ち酒 201

第7章 幸せの季節

お菓子と娘 204

春の唄 205

青い山脈 206

いつでも夢を 207

君といつまでも 208

この広い野原いっぱい 209

すみれの花咲く頃 210

◆エッセイ◆C・W・ニコル 211

四季の歌 212

瀬戸の花嫁 213

太陽がくれた季節 214

てんとう虫のサンバ 215

関白宣言 216

第8章 時代を映すうた

カチューシャの唄 220

丘を越えて 221

リンゴの唄 222

憧れのハワイ航路 223

東京ブギウギ 224

銀座カンカン娘 225

東京キッド 226

◆エッセイ◆宇野亜喜良 227

君の名は…… 228

月がとつても青いから 229

南国土佐を後にして 230

こんにちは赤ちゃん 231

幸せなら手をたたこう 232

星影のワルツ 233

アカシヤの雨が止むとき 234

三百六十五歩のマーチ 235

戦争を知らない子供たち 236

◆エッセイ◆久世光彦 237

あなた 238

昭和枯れすすき 239

およげ!たいやきくん 240

シクラメンのかほり 242

北国の春 243

異邦人 244

第9章 歓びと哀しみと

宵待草 246

曼珠沙華 247

しぐれに寄する抒情 248

影を慕いて 249

平城山 250

百舌が枯木で 251

別れのブルース 252

蘇州夜曲 253

悲歌 254

アマリリス 255

ふるみち 256

みぞれに寄する愛の歌 257

愛の讃歌 258

悲しき口笛 259

長崎の鐘 260

◆エッセイ◆有馬稲子 261

さくら貝の歌 262

髪 263

さくら横ちよう 264

水色のワルツ 265

あたしの大事な与ひよう 266

サン・トワ・マミー 268

◆エッセイ◆小沢昭一 269

サルビア 270

愛して愛して愛しちゃったのよ 271

悲しい酒 272

世界は二人のために 273

また逢う日まで 274

精霊流し しょうろうなが 275

百万本のバラ 276

第10章 生きてきた道

九月十日 278

城山 しろやま 279

川中島 280

◆エッセイ◆出久根達郎 281

丹沢 282

さすらいの唄 283

人生劇場 284

ひぐらし 285

岸壁の母 286

ここに幸あり 288

◆エッセイ◆泡坂妻夫 289

古城 290

ろくでなし 291

男はつらいよ 292

川の流れのように 294

第11章 それぞれの故郷

鎌倉 297

琵琶湖周航の歌 298

砂山 299

波浮の港 はぶ 300

◆エッセイ◆大和和紀 301

九十九里浜 302

ちやつきり節 303

松島音頭 304

東京行進曲 305

富士山みたら 306

かごかき 307

東京音頭 308

東京ラブソデイー 309

芭蕉布 ばしゅうふ 310

◆エッセイ◆安西水丸 311

知床旅情 しれとこ 312

箱根八里 296

秋田音頭	313
鹿兒島小原節	314
刈干切唄	315
金毘羅船々	316
九州炭坑節	317
宮城長持唄	318
南部牛追唄	319
北海盆唄	320
最上川船唄	321
安来節	322
花笠音頭	323
黒田節	324

第12章 郷愁

早春賦	326
さくら	327
美しき天然	328
◆エッセイ◆山口洋子	329
花	330
朧月夜	331
からたちの花	332
花の街	333
夏は来ぬ	334
田植唄	335
ばらの木	336

この道	337
夏の思い出	338
納涼	339
夜店の唄	340
つくだ煮の小魚	341
五木の子守歌	342
◆エッセイ◆宮脇 檀	343
遠き山に日は落ちて	344
赤蜻蛉	345
秋の月	346
故郷	347
荒城の月	348
◆エッセイ◆三枝成彰	349
紅葉	350
埴生の宿	351
ローレライ	352

庭の千草 353
 四つの夕暮の歌 354
 中国地方の子守歌 356
 旅愁 357
 城ヶ島の雨 358
 浜辺の歌 359
 冬景色 360
 浜千鳥 361
 冬のもてこし 362
 ◆土ッセウ◆司 修 363
 雪の降る街を 364

第13章 明日へ

ケ・セラ・セラ 366
 上を向いて歩こう 367
 遠くへ行きたい 368
 見上げてごらん夜の星を 369
 むこうむこう 370
 ◆土ッセウ◆童門冬一 371
 マイ・ウェイ 372
 翼をください 373
 希望 374
 あの鐘を鳴らすのはあなた 376
 いい日旅立ち 377

乾杯 378
 昂 379
 花(すべての人の心に花を) 380
 ◆土ッセウ◆荻野アンナ 381
 グリーン グリーン 382
 曲名索引 388
 歌いだし索引 395
 参考文献・資料提供・協力 409
 外国曲著作権表示一覧 414